

知事記者会見の概要

日 時：令和4年2月7日(月) 17:20～17:47

場 所：502会議室

出席記者：10名、テレビカメラ6台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

< 幹事社：読売・日経・YTS >

☆報告事項

知事

大変お忙しい中、お集まりをいただき感謝申し上げます。

県内では、本日 221 名の新規感染者が確認されました。このところ、連日のように 200 人台の新規感染者が確認されているところです。また、学校や保育所などでのクラスターの発生も相次いでおりまして、感染の勢いが止まらない状況でございます。

先ほど、山形県新型コロナウイルス感染症に係る危機対策本部会議を開催いたしまして、重点措置区域の追加について協議・決定をいたしました。県内の感染状況ですが、2月7日現在で、重症者はおりませんものの、病床使用率は 43.9%、新規陽性者数は直近 1 週間で人口 10 万人あたり 177.09 人と非常に高い水準で推移し、自宅や宿泊施設での療養者の急増により、保健医療提供体制に対する負担が大きくなっております。

天童市では、隣接する山形市の感染拡大を受け、直近 1 週間の人口 10 万人あたりの新規感染者数は、1月27日は 14.29 人だったんですけども、2月7日現在では 82.54 人まで増加をしております。また直近 1 週間の新規陽性者数に占める 10 歳未満と 10 代の割合が 30% 程度と高いことから、今後、家庭や学校、保育施設などでの感染拡大が危惧される状況であります。そういった事などを総合的に判断しまして、2月9日から 2月20日まで天童市を重点措置区域に追加することといたします。

天童市をはじめ、重点対象区域にお住まいの皆様には、2月20日までの間、不要不急の外出自粛や、飲食店の営業時間の短縮、会食時の人数制限、学校活動の制限などにご協力をお願いいたします。この感染の急拡大を 1 日でも早く抑え込むため、県民の皆様には不織布マスクの着用やこまめな手洗い、消毒、密閉・密集・密接の全てを避けるゼロ密、換気の励行といった基本的な感染予防対策を改めて徹底してくださるようお願いいたします。特にマスクを外した会話、会食が最大の感染リスクがありますので、マスク生活の徹底をお願いいたします。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

山形新聞、田中です。今回の対象地域、天童が新たに加わって、9つの市と町と、2月9日からということになるかと思うのですがけれども、先ほどの本部員会議でもありました、例えば隣接自治体というと、例えば上山であるとか、米沢であるとか、例えば川西であるとか、南陽であるとか、その隣接の自治体というのは、他にもあるわけですがけれども、今回、天童 1 市ということになった。他の地域に関してのリスクの分析はどのように行われたのか、まず教えていただければと。

知事

はい。天童市では隣接する山形市の感染拡大を受け、直近 1 週間の人口 10 万人あたりの

新規陽性者数が増加しております。また、10歳未満と10代の割合が高まっており、今後、家庭や学校、保育施設などでの感染拡大が危惧されるため、早めに重点措置の適用を決めたところです。

なお、周辺の上山市、山辺町、中山町といった所は、天童市と比べ、人口10万人あたりの感染者数が上回ってはいるんですけども、上山市では子どもの感染者数が少ないといったことや、山辺町、中山町では実数の感染者数がそれほど多くない。人口が少ないために大きな数字になってしまうといったことなどを総合的に判断し、追加しなかったものであります。

置賜地域の米沢市、高畠町の周辺地域にあたる南陽市の話も今ありましたけれども、米沢市と高畠町でも、減少の兆しが見られるという捉え方もできる、そういう状況、まだまだ油断はできないんですけども、そういった兆しも見え始めてるかなということと、あと南陽市で子どもさんの感染者数が多くない、またその実数もそんなに多くない、割合として天童市に比べるとそんなに多くないといったことも総合的に判断して、天童市だけをこの度、追加するというように決定したところでございます。

記者

ありがとうございます。もう一つ教えていただければと思うのですが、今、米沢、高畠、ピークアウトの兆しが見えているというお話がありました。先ほどの本部員会議でも、例えば鶴岡、酒田もピークアウトの兆候が見られるということがありましたけども、山形市に関してはまだ増加傾向の途上だというような分析でありました。このほかの地域と比べて山形がまだ増加傾向にあるという、その要因というか背景というのは、どのようなことが想定されるか、推測になるんでしょうけども、どのように捉えておられるのか教えていただければ。

知事

はい。その前に、やはり置賜地域、庄内地域がピークアウトなのかどうかまでは、ちょっと確かなところは何とも言えないというところがあります。庄内で言いますと、鶴岡は少しずつ減少傾向が見られるようだというところでありますが、酒田のほうの北庄内のところがちょっと増えている地域があるというようなこともありまして、まだまだやっぱり予断を許さない状況かなと捉えているところです。

そして、山形市、やはり何と言いましても人口が多い、ほかの市と比べましても、格段にやはり山形市は人口が多いということが一つはあります。そして、クラスターも複数発生しておりますし、また、感染経路の不明者といったところも案外多いということも聞いておりますので、その辺はまだまだやはり何とも言えない、あのグラフを見ていただいてもわかるように、上昇傾向というのがはっきりと出ておりますので、ちょっとこれからも心配だなという気がしております。

記者

NHKの桐山と申します。今回、重点措置の適用地域に追加された天童でも、そのポイントの一つとして、学校であるとか保育施設、要は10代以下の方の感染者の割合が高いことが一つポイントになったように伺いました。改めまして、天童も含めて、この特に基本的な、先ほどおっしゃったような、マスクを徹底するとか、三密を全部避けるとか、基本的なことをやるというのは大前提として、特に子を持つ親御さんであったり、学校の関係者であったり、こういうことを気を付けてほしい、という呼びかけございましたら、よろしく申し上げます。

知事

はい。何と言いましても第6波の特徴と言いますか、それはやっぱりオミクロン株の特色といったことがあるのだらうと思っています。感染力が非常に強くて速く感染するという、スピードがあるということがあります。それで1月の1週目、2週目、3週目は、20代を中心にかなり割合は高かったのでありますけれども、第4週から、それが子ども世代、子育て世代にシフトしております。それがずっと続いておりました、学校や保育園、そして家庭内感染といったことをグルグルと拡大しております、そしてそれが回り回って高齢者のほうにも感染が拡大しております、入院患者も、最初は本当に少なかったのでありますけれども、最近はまだ半数を超えております。高齢者の入院割合が6割を超えている状況であります。重症者は0なのですけれども、中等症と言いますか、そういった方が増えているということを聞いておりますので、やはり病床使用率といったこともこれからしっかりと見ていかなければならないと思っています。

そういったことが最近の状況ということになるのですけれども。そうですね、やはり、小さな子ども達というのは、県外に行くわけでもありませんし、いろんなところへ出かけていくわけでもありません。本当に家庭や学校、保育園といったところが行動エリアなのだと思えます。そういった子どもたち、ワクチンもまだ接種できない状況でありますし、やはり大人が子どもに感染拡大するのを避けるということが大変大事だと思いますので、基本的な感染防止対策をしっかりと徹底をして、これまで以上に徹底していただいて、なおかつ混雑したところに行かない、あるいはお買い物に行くにしても空いた時を考えたり、時間を短くしたりというようなことで、なるべく人と接するのを避けると言いますか、そういったことをやはり配慮していただくのが大事なかなと思っています。

本当にあとの位かかるかわかりませんが、ずっと続くわけではありませぬので、しっかりとこの重点措置の期間、20日までとなっておりますけれども、せめてそれまでは我慢をしていただいて、うつさない、うつらない、そういったことをしっかりと肝に銘じて行動していただければ、大変ありがたいと思っています。

記者

あとですね、併せまして、県のほうで当然こうした年代の方々が通う施設、例えば学校とかなんですけれども、県立の学校であったり、あと市町村立の学校であったりと、あると思うのですけれども、学校のほうにこういうことを呼びかけて、こういう対策をしていくということありましたら、改めてよろしくをお願いします。

知事

はい。それは県教育委員会が市町村教育委員会に対して、先ほどの会議で教育長からのお話がありました。政府のほうからも、さまざまなことが来ているということでもありますので、そういったことをしっかりとお伝えをするというふうなことであります

また、それ以前から本県として、感染者あるいは濃厚接触者が発生した時には、確認された時には、タスクフォースといったことを大いに活用していただいて、疫学的な見地からも参考意見などをいただいて、早め早めに対処していただく、機動的に対処していただくことが大事だと思っています。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

荘内日報、松田です。よろしくをお願いします。今もお話ありましたが、こちらのまん延防止等重点措置の適用から、明後日で大体2週間が経つのですが、さっき知事がおっしゃっていたように、酒田などではちょっとまだ増加傾向もあるという、県全体でなかなか効果的な減少に繋がっていないのは、知事は今どんなふうに見ておられるのか。どんなところに原因があるかと思っていますでしょうか。受け止めに聞かせてください。

知事

はい、そうですね。なかなかオミクロン株は手強いなというのが一つであります。とにかく驚異的な感染スピードというのでしょうか、そこをどうやって封じ込めていくかということが大事なんだと思っていますが、庄内地域のお話も出ました。ただ本当に地域が一丸となって、今、取り組んでおりますので、今、その成果も少しずつ出ているのではないかと、というふうにも見えています。と言いますのは、1週間前と比べての感染者の割合と言いますか、何倍になったかと、1週間前に比べて何倍かというので、防災部長から会議の時に報告ありましたけれども、2倍3倍であったのが、最近1.4倍とか、拡大率が低くなっていると言いますか、そういったところが数日間続いて出てきておりますので、少しは成果が出てきているのかなとも思っております。まだ顕著ではありませんけれどもね。1倍を割るともうしっかりと減少していくということらしいので、まだでありますけれども、

ただ、2倍、3倍から1.何倍までなってきたということは一つの成果になるのかなとも思っています。

記者

はい。それでピークアウトするかどうかまだわからないということもあるんですが、ちょっと聞きにくいんですけども、重点措置期間の20日までにまた拡大してきた場合、期間の延長も視野に入れていただけますでしょうか。

知事

はい。その延長ということでありますけれども、まん延防止等重点措置の適用期間の延長または解除、これについては政府が判断することとなりますが、その政府の判断に当たっては都道府県の意向を確認するとなっております。

本県の感染状況は本日も200人を超えるという状況であります。病床使用率も4割を超えるといったように、感染拡大の勢いは止まっていないというふうな状況ではあるんですけども、感染者の直近1週間と先週1週間の比較で、2倍を超えていたものがここ数日は2倍未満と、1.何倍となっておりますので、伸び率は鈍化している、効果が見え始めていると考えております。まだ20日まで、今日が7日ですか、ですから20日まであと13日間ございます。2週間を切るわけなんですけれども、その解除や延長ということにつきましては、今後の感染状況などをしっかりと見極めて検討・判断してまいりたいと思っております。

記者

例えば、解除もしくは延長となった場合、その判断基準で一番大きいものというのはどんなことですか。やっぱり感染状況でしょうか。

知事

そうですね、やっぱり医療提供体制というのはずっと、そこがしっかりと県民の皆さんのための医療体制、ここをしっかりと守れるかどうかということはやっぱり大きなところだと思っています。ですから病床使用率、あと重症者率、こういったことはやはり大きく影響すると思っています。

あと、もちろん1日の新規感染者数でありましたり、それから感染経路不明者数でありましたり、あとクラスターが発生しているか、もう発生しなくなったかというようなことも、やっぱり全てを総合的に判断して決めるというようなことになるかと思えます。

記者

ありがとうございました。

記者

共同通信、阪口です。会議の中でもちょっと言及があったと思うんですけども、コロナの切り札というかワクチンがかなり重要なと思うんですが、その点に関して、今日予算委員会のほうで岸田総理が、3回目の接種に関して1日100万回の目標を今月後半に達成できる見通しだというような発言をされたようなんですけれども、率直にどのように受け止めていらっしゃるかを伺えますでしょうか。

知事

そうですね、やっぱり3回目接種というのは感染防止対策の要になると思っておりまして、その100万回、早くそういった状況と言いますか、そういった環境整備を作ってもらいたいと思っています。

ただ、昨年の1回目2回目と違うのは、やっぱり雪国特有のこの季節というのがありまして、雪国にとってはなかなか、どんどんと進めるというようなことは、なかなか大変な状況もあるのかなと思っています。市町村によってはやっぱり豪雪で、高齢者の方が外出しにくいといったようなところもございますし、昨年の時期と比べて、受験シーズンでありましたり、いろいろな移動シーズンが近づいておりますから、なかなか大変ではないかなとも思っています。

また、例えば大規模接種を考えますと、昨年は県が大規模接種をやりますというようなことになると、それは別枠でワクチンが来たんですけども、それですごくやりやすかったというのはあります。今回は、大規模接種、県も実施するというようなことにいたしましたけれども、市町村と調整をしながら、市町村から何百人分とかそういったことを調整しながら進めなければならないというようなことでありますので、いろいろと事務的な調整なども必要だというようなこともありまして、バンバンと実施できるような体制、昨年よりはちょっと大変なのかなとも思っているところです。

ですけれども、やはりこの3回目接種というのが、本当に要でありますので、市町村と連携しながらしっかりと進めてまいりたいと思っています。

記者

ありがとうございます。加えて、率直にこのタイミングで、今月の後半ということになると思うんですけども、全国知事会としても何度も政府に要望されていると思うんですけども、ブースター接種を早くしてくれという話はずっとされていたと思うんですけども、ここまでずれ込んでしまったこと、いろいろワクチンの確保なり課題はたくさんあったと思いますけれども、早かった、遅かった、どのように率直に受け止めていらっしゃるのでしょうか。

知事

そうですね、一概にね、なかなか言えないところではありますが、でも本当に3回目というお話が出てきてね、いろいろと7か月後であったりとか6か月でもいいというようなことで、いろいろと変遷してきておりますので、市町村も混乱をしたようなこともあったかなと思っています。ただ、これは本当に誰にも予測がつかないパンデミックでありますので、批判をするというよりは、まずできる限り一致協力して、しっかりと前に進めていくべきだというのが私の考えであります。

記者

ありがとうございます。あともう1点、モデルナを打ちたくないというような話もあると思いますけれども、改めて知事から何か呼び掛けがありましたらお願いします。

知事

はい。どういういろいろな情報があって、モデルナを打ちたくないということになったのかわからないんですけども、一つにはモデルナの方が副作用が大きいんじゃないかというようなことも言われているのかなと思いますが、3回目接種の場合、1回で済みますし、打つ量はモデルナが1回目2回目と比べて半分なんです、打つ量が。半分だそうでありますので、その副作用というようなことも、ファイザーとあまり変わらないというようなこともお聞きをしているところであります。

まずとにかくいろいろな情報があるかもしれませんが、3回目、なるべく早く打っていただくということがこの第6波の収束に繋がっていくと考えていますので、ファイザーかモデルナかというようなことに関わらず、もうできるだけ早く県民の皆さん、3回目の接種を受けていただきたいと思っております。

記者

ありがとうございます。